

I B C 番組審議会月報

2004年4月30日 72

I B C 岩手放送

第487回番組審議会・議事概要

日 時 平成16年4月20日(火) 午前11時～12時30分

場 所 I B C 放送会館 大会議室

議 題 テレビ「I B C ニュースエコー」
について

委員総数 14名

出席委員 9名

石川 桂司委員長

藤原 正紀副委員長

熊谷 志衣子委員 坂田 裕一委員 佐藤 潤次郎委員

米谷 春夫委員 三浦 宏委員 山崎 文子委員

吉沢 正則委員

欠席委員 5名

阿部 价男委員 小苅米 葉子委員 小松 務委員

中原 志郎委員 矢佐 俊幸委員

I B C 出席者

小西社長、佐藤常務、川島編成局長、

村上報道制作局長、柴田報道制作局次長

金谷番審事務局長

議題 テレビ「I B C ニュースエコー」について

< 委員の主な発言 >

外へ出での機動性をどんどん発揮し、出来るだけ県内の取材網、ネットワークを使って機敏に対応してもらいたいと期待しています。

二人の新人アナはまだぎこちないものの爽やかで大変いい。媚びることなく慎んで行く事が必要。ニュースが盛岡地区に集中するのはやむを得ないものの、バランスの取れた地域のニュースを流していただきたい。

他局のニュースはいずれも男女ペアですが、女子アナ3人にした狙い、意図と、どういう視聴者層を想定しているのかお聞きしたい。

今回、より魅力的な番組になりました。とくに女性ならではのメッセージもひとつの特徴として新たな雰囲気を出せるのではないのでしょうか。思い切って女性だけの登場は、斬新な企画だと感じました。3人のバランスやコンビネーションなどはこれからの課題だと思います。

ニュースの本質や背景についてIBCの主張なり考え方をどう出して行くのか、新聞社であれば論説やコラム的な要素が足りないのではないかと感じました。

バックのセットがすっきりし、最初の出だしや天気予報など、色あいがとてもきれいに明るくなりました。若い人達の成長も楽しみです。

取材する記者は内容をきちんと理解してインタビューしてほしい。ある程度の知識をもって取材しないと大本営発表的な陳腐なものになり、ジャーナリズムのレベルは上がらないと思います。

村松アナと新人アナとの関係がよく、新人アナも短期間のうちによく成長しました。新しいスタイルの「ニュースエコー」は概ね合格点だと思います。

< 局側 >

「この春、ニュースエコーが変わります」というキャッチフレーズでリニューアルしました。他局との差別化の論議の中で、女性だけのキャスト起用の狙いは、県内初ということで個性をだすことと、村松アナのベテランの味と新人アナのフレッシュ感、新鮮さをだすことでした。新人の起用はある意味では冒険かもしれませんが、使いながら育て、早く岩手に馴染ませようという意図もあります。

スポーツコーナーの位置付けは、従来の「ニュースエコー」の一番の視

聴者層である高齢者から新たな視聴者層の開拓に置いています。今後、全国ものだけでなく、県内のタイムリーなスポーツネタは積極的に取り上げていく予定です。

男性アナの陰のニュース読みは、女性だけのスタジオですので変化をつけるためにやっており、今後も続けていきます。

中継に関しては、スタジオ中心の展開からスタジオの外にいわゆる小窓を開くことが狙いです。中継に対応できる機動性や、フットワークは軽くなってきていますので、新人アナの訓練と顔を覚えてもらいたいこともあり、これからもこの方向でいきたいと思えます。

県内ニュースの地域的バランスについては、出来るだけ幅広く取り上げるよう意識的に進めて行きますし、コラム的、論説的、社説的なものをどうするかについては、記者、デスク、キャスターで論議をし、結論づけることもあったり、どう思うかを視聴者に投げかけたりのコメントをつけるようにしています。

スタジオのセットやロゴも変えました。女性だけの新しいキャスターを含め、スタッフ一丸となって生まれ変わって展開をしていくという意気込みを示したつもりです。

平成15年度下期(10月～3月)の視聴率は、全日平均7.7%、ゴールデン13.3%、プライム12.4%と各部門とも前年比0.5～0.6%下回り、岩手エリア民放では3位でした。要因は、「ウオッチ」の低迷やドラマの不振があげられます。夕方再放送の「水戸黄門」や夜8時台の「水戸黄門」「関口宏のフレンドパーク」「動物奇想天外」などは高視聴率を維持しています。「ニュースエコー」は10.2%、「じゃじゃじゃTV」は8.6%と内容次第では二桁取れるようになってきており、4月以降に期待しています。